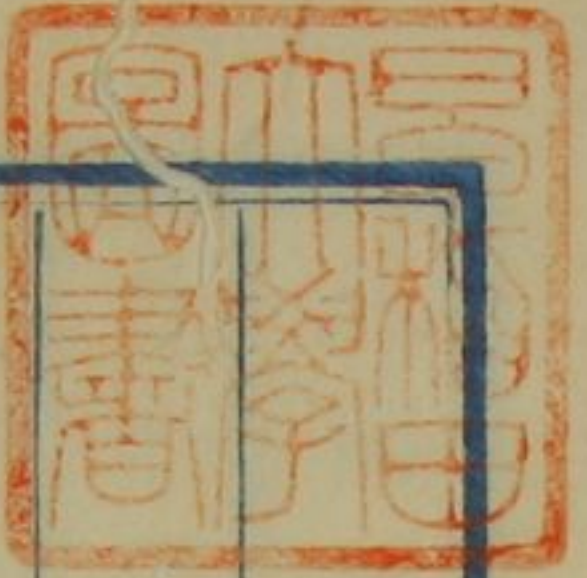




114  
941



大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

名原重俊

始ノ重俊ノ佛国ニ向テ榮嶽スルヤ直ニ巴里  
 府ニ到ルヲ豫期セント雖モ伊国ハ陸路ヲ巴  
 里府ニ取ルノ捷徑ニシテ且改正事件ニ至テ  
 之重要ノ關係アルヲ以テ先ツ該國政府ノ景  
 況ヲ探リ候セテ我政府ノ主意ヲ在留書記官  
 ニ傳達スルニ若カスト依テ十一月廿一日ヲ  
 以テ伊国那波港ニ上陸シ翌廿二日羅馬ノ我  
 公使館ニ到リ中村書記官ニ面晤シテ當國政



府ノ情状如何ヲ問フニ曩ニ我外務卿ニ兼クル  
所ノ訓状並ニ書翰ニ對シテハ伊国政府ノ返翰  
ヲ領收シタリ其書中ノ大意ハ現行條約ヲ改正  
スルノ意ハ既ニ之ヲ領蒙シタリ尤モ他ノ締盟  
各國ノ概念モ有ルヘケレハムトノ意ヲ會ム  
ト云フ此ニ依テ之ヲ案スレハ改正方法ノ如何  
ハ姑ク他国ノ為ス所ニ譲リ敢テ我カ求ムル所  
ニ就テ即答ヲ為サシムルモノ、如シ  
十一月廿七日巴里府ニ着ス依テ直ニ松方太輔  
ニ面晤セリ然ルニ鞍島公使ハ當時宿病ニ罹リ

佛国ノ遣強ナルヘルニ於テ保養スルニ因リ  
直ニ相會スルヲ得ヌ此際上野公使ヨリ電報ヲ  
以テ條約改正ノ事ニ就キ任国外務卿ニ談判セ  
ントス故ニ之ニ先テ我外務卿ノ訓状ヲ領シ且  
豫メ我政府ノ主意ヲ聞カンヲ求ムト依テ十  
二月二日松方太輔ト共ニ巴里府ヲ發シテ倫敦  
ニ向ヒ翌三日上野公使ニ面晤シテ訓状ヲ傳達  
シ然レテ改正ノ主意ヲ述ヘ且曩ニ同公使ヨリ  
出ス所ノ訓状並ニ書翰ニ對スル英政府返翰ノ  
大意ヲ聞クニ「彼我ノ條約ヲ改正セント欲スル



此ハ先ノ一ヶ年前ニ通知スヘキハ載セテ條約  
書中ニ在リ故ニ今ヤ該條約ヲ改正セントナテ  
ハ先ヲ其通知ヲ與ヘテルヘレ加之保護稅ヲ課  
セントスルノ意ヲ述フレ氏其事タルヤ彼我ノ  
不利ヲ招クノミニシテ敢テ經國ノ策ト云フヘ  
カテス云々ト依ラ之ニ答フルニ、忝ル五月中出  
ス所ノ訓狀先ニ書翰ハ則チ改正ヲ要スルノ通  
知ニシテ又保護稅ノ疑問ニ就テハ我政府ニ於  
テハ固ヨリ外國品ノ輸入ヲ防カント欲スルノ  
意ニ非ス唯姑ク一二ノ内産品ヲ僅ニ保護セン

トスルニ過キサルノミトノ意ナル返翰ヲ以テ  
セリ故ニ明日任國外務卿ニ面議セントスル  
ノ旨趣ハ前ノ書翰ノ盡サル所ヲ詳陳スルニ  
アリト此ニ於テ相共ニ會同抗議スルニ今ヤ我  
政府ニ於テ改正ヲ求ムルノ主意ハ專ラ輸入ヲ  
増補スルヲ一點ニアリテ所謂保護ナル者ハ僅  
ニ一二ノ内産品ニ加フルニ止リ敢テ一般ノ輸  
入品ニ重稅ヲ課シ内産ヲシテ外産ニ競争セシ  
ムルニ足ルヘキノ保護ヲ施サント欲スルニ非  
ス又現ニ我邦製造工作ノ景況ヲ以テ見ルニ其



之ヲ施サント欲スルモ善クシ能ハサル所ナリ  
是レ時々ノ報告ニ因テ既ニ任国外務卿ニ於テ  
モ詳悉セラル、所ナルヘシ故ニ英政府ニ於テ  
歳入ノ不足ヲ補ハシカ為メニ増税スルノ旨趣  
ヲ認諾アラシニハ是レ則チ我政府ノ滿意スル  
所ナリ加之改正通知ノ事ニ関シテハ五月中我  
公使ヨリ出ス所ノ書翰ヲ以テ公然タル通知ナ  
リト英政府ノ認可アラシトテ冀望スヘク又改  
正ノ方法着手ノ順序ニ就キ英政府ノ意見アラ  
ハ備サニ之ヲ領氣スヘシ云々ト一英政府ノ意

見アラハ云々トノ旨趣ハ叙ヨリハ厭迄モ我外  
務卿ノ訓状ノ主意ニ遵テ稅權回復ノ事ヲ固守  
シ彼若シ貿易條約ヲ望ムノ意アラシニハ彼ヨリ  
シテ之ヲ求メシメント欲シテナリ一是レ則チ  
豫メ上野公使ノ英国外務卿ニ談判スヘキ要領  
ヲ把握シタル大意ナリ  
上野公使ハ前述ノ要領ニ基キ任国外務卿ニ談  
判セシニ該卿カ改正通知ノ點ニ関シテ云ハル  
ル所ハ余ハ去ル五月中日本政府ヨリ差出サレ  
タル書翰ニ對スル他ノ或國ノ返稿ヲ見ツルニ



他ノ或政府ト雖氏五月中ノ書翰ヲ果シテ改正  
ノ通知ナリト認メタル乎否ヤハ書中ノ明示セ  
サル所ナレハ充分ニ疑ヲ存スヘキノ點ナリ又  
保護ノ說ハ左迄主意ノ點ニアラスレテ其最要  
トスル所ハ歳入ヲ補フノ點ニアリトセハ是レ  
黙止シ難キノ事ナリ然レモ徒ニ是等ノ議ニ論  
弁ヲ費ヤンヨリハ寧ロ貴政府ニ於テ改正セン  
ト要スル目ニ就テ實地ノ談判ニ及テハ如何ト  
ノ意ナリ尔後數日ヲ経テ英国外務大臣ハ御ノ  
命ヲ兼ケテ上野公使ニ内狀ヲ贈リ、五月中ノ書

翰後既ニ幾多ノ時日ヲ経過シタレハ來十二年  
十二月後ヲ以テ改正條約ヲ實施センコトヲ諾セ  
ラル、ニ於テハ該書翰ヲ改正ノ通知ト認ムヘ  
シ云々ト因テ上野公使ハ右書翰ノ意ヲ兼ケ  
テ諾シタル旨ヲ報セリ

十二月十八日工野公使ヲ伴テ巴里府ニ着ス此  
日青木公使モ亦タ別霖ヨリ到ル因テ我外務  
卿ノ訓狀ヲ同公使ニ傳達シ候セテ改正ノ旨趣  
ヲ述ヘタリ且獨國政府ノ情狀ヲ問フニ五月中  
ノ書翰ニ對スル返翰ノ大意ハ當時日本政府ニ



於テ要請スル旨趣ニ就テハ先ツ其目的ノ在ル  
所及ヒ他日日本政府ニ於テ得ラル、所ノ利益  
ニ交フルニ何物ヲ以テスル乎ヲ聞知スルニ非  
カレハ直ニ之ヲ承諾シテ恨議ニ及ヒ難シト云々  
其佛國ニ於ケル返翰ノ大意モ亦獨ト大同小異ニシテ我ヲ述ル處ノ  
旨ヲ兼諾致シ難シト断言スルニモ非サレ其文章卑屈鄭重勉テ我  
目的ヲ達ケタルモノ如シ及ヒ我得ル所ノ利益ニ交ル内地旅行許サレ  
ノ意ヲ示セリ因テ駿島公使ニ差出タル書翰ニ對シテ決各奈辺在哉  
度々談判アリニ到底求ムル如ク貴國ノ全權ヲ以テ稅則ニ恣ニスル  
コト於テハ同意致シ難シ貿易條約ニテトコトハ同意スヘシニト  
ナリト

各國談判ノ景況ハ前述ノ如クナルカ故ニ十二  
月十九日松方太輔上野青木兩公使、鞍馬公使代  
鈴木貫一等ト共ニ佛國巴黎府ノ旅亭ニ會シテ  
恨議スルヲ左ノ如シ

- 第一我外務卿ヨリノ訓狀ヲ其儘若任國政府  
ハ出スヘキヤ否ヤ
- 第二貿易條約ヲ結ムヘキヤ否ヤ
- 第三條約改正談判商議ハ何レノ地ニ於テス

ルヤ



第四條約書中規則ヲ掲ケンニハ何割以上ニ  
昂ラストノミヲ記スル字將々税目ヲ明  
掲確定スル字

第一論題 茲ニ英佛獨ノ政府ニ夫テ答フル可  
ル旨趣ヲ考フルニ彼ハ如何ナル方法ニ改正  
スル字ヲ知ラントテ要スルノ場合ニ至レリ  
然ルニ今此訓状ナル者ハ到底曩ニ各任國政  
府ニ出スル者ヲ擴充註釋セシニ出キサレ  
ハ童子テ同主意ノ訓状ヲ出スモ其功ナカ  
ル

ヘシ故ニ今之ヲ出サ、ルヲ善トス

第二論題 今ヤ歐洲各國皆ナ貿易條約ヲ結ン  
テ彼我ノ特權ヲ抑制スレハ我獨リ其意ノ欲  
スル所ニ從ヒ外國ノ通商ヲ抑制<sup>理</sup>セシテ欲ス  
ルモ能ハサルヘシ又互相ノ權理ニ基テ貿易  
條約ヲ結ハモ故テ我國權ヲ換スルニアラス  
到底貿易條約ノ策ニ歸セサルヲ得ス

第三論題 各任國ニ於テ改正ノ談判ニ着キス  
ル氏ハ鄭重尊敬ノ意深レテ自ら平公ヲ求メ  
ナルヲ得サルノ姿アリ且却テ細目ニ涉ラス



大體ヲ以テ之ヲ決スルノ利ナントセズ加之  
英佛ノ如キハ既ニ答、自國ニ於テ其商議ニ  
進マントヲ求ムルモノ、如シ然ラ則チ各任  
國ニ於テ直ニ談判スルニ若カス

第四論題

税則ヲ定メンニハ素ヨリ擬定ノ税

則ニ基リヘキハ勿論ナリ而レテ之ヲ條約書  
中ニ掲グルニ至テハ原價三割ニ起過ス可  
ラストノ一條ヲ以テ最良トス然レ氏之ヲ以  
テマキシムトスル氏ハ何品ヲ論セテ三割ノ  
税ヲ課スルハ我カ意中ニ在ルカ如シ然ル氏

ハ這面ノ改正税則平均一割五分ヲ以テスラ  
彼其税率ノ昂貴ナルヲ恐懼センニ今又之  
ニ加フルニ三割以下云々ヲ以テセハ各國ノ  
之ニ同意セサルヤ必セリ故ニ確然税目ヲ定  
メテ商議スル所アラハ或ハ我目的ヲ達スル  
ヲ得ン乎然レ氏到應此議ハ答、草案ヲ作り  
集メテ後ニ議スルニ若カス

然ラハ先ヲ答、草案ヲ作り集メテ後議訂正  
シ而レテ後チ我外務卿へ左ノ趣ヲ電報セン



○貿易條約ヲ結ムヘキ事○税則ハ草案ニ  
基キ取捨スヘキ事○其商議ハ互ニ各任國  
ニ於テ為スヲ得ヘキノ要任アル事



